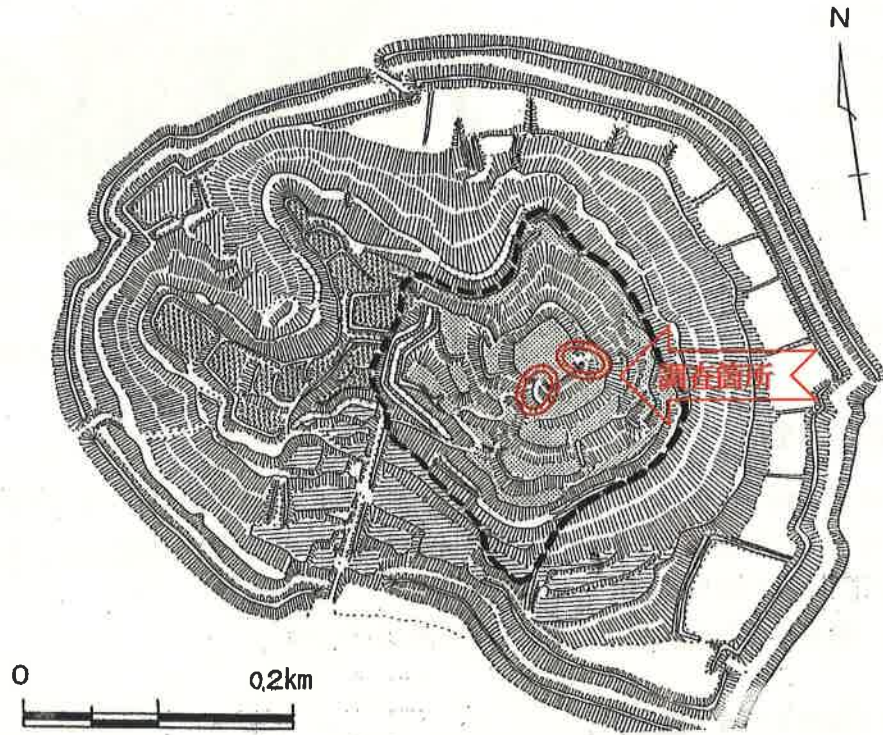
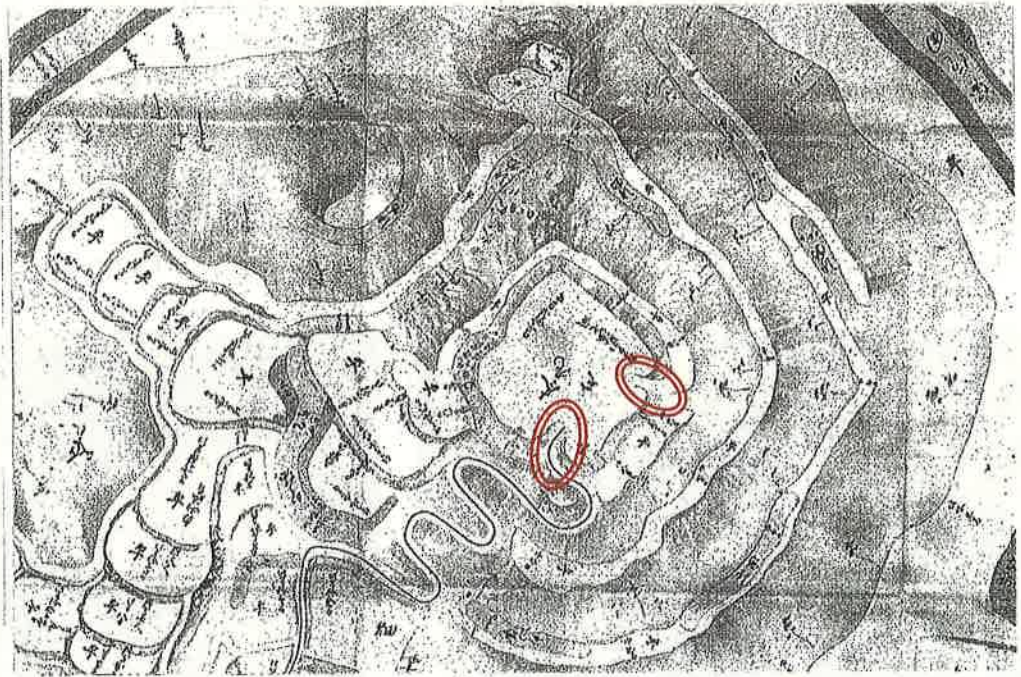


史跡小牧山主郭地区第8次発掘調査について

小牧山城縄張図
(破線の範囲が主郭地区)



春日井郡小牧村古城絵図(部分拡大)
※十七世紀中頃
蓬左文庫蔵



遺 跡 名

こまきやまじょう
小牧山城（国指定史跡 小牧山）

所 在 地

愛知県小牧市堀の内一丁目地内

調 査 理 由

史跡整備

調 査 面 積

約310㎡

調 査 期 間

平成27年8月～平成28年3月（予定）

調 査 主 体

小牧市教育委員会



図1 調査位置と見学ルート

1 調査の概要（何がでてきたのか）

史跡小牧山主郭地区の発掘調査は史跡整備に伴う事前調査のため、4ヵ年の試掘調査と7ヵ年の発掘調査を経て、今年度が12年目です。今回の調査と過去の調査成果から、永禄6年（1563）に織田信長が築いた小牧山城の姿が徐々に明らかとなってきています。

今年度の調査で得られた主な成果は以下のとおりです。

1. T区（写真1～4、図2）

主郭（本丸）東斜面の調査区です。山側から石垣Ⅰ、Ⅱ、通路、石垣Ⅱを確認しました。

石垣Ⅰは南北→南東～北西→東西と3方向に屈曲します。主郭が東方向に方形に張り出す部分（ポンプ施設付近）の南・東・北の3辺を石垣で囲み、うち北辺については東から主郭にはいる通路からみて左側にそびえる石垣として築かれています。その前面には一部に側溝状の石組みや礎石1石が確認されました。

石垣Ⅱは南北→東西の2方向に屈曲し、入隅が形成されています。東西方向の石垣Ⅱは前述の東から主郭に入る通路からみて左足元の擁壁として築かれています。この通路は石垣ⅠとⅡで区画された坂道であったと考えられますが、路面がスロープであったか、石階段であったかは不明です。



写真1 T区 石垣Ⅰと礎石



写真2 T区 搦手門の礎石となる可能性のある石



写真3 T区 石垣Iと側溝状の石組み

2. U区 (写真5・6、図3)

主郭(本丸)南斜面の調査区です。山側から石垣I(一部)、通路、石垣IIを確認しました。この調査区は現代の石階段による大規模な地形改変と攪乱をうけており、特に南半部では遺構面の大半が失われています。

石垣Iは調査区西端にある花崗岩巨石を隅角石として主郭に向かい屈曲し、さらに東西方向へ屈曲する、L字形のプランです。

石垣IIは調査区西端から岩盤加工による切立面で入隅を緻密に成形し、南北方向に屈曲させて石垣を継ぎ足しています。石垣IIは南から主郭に至る通路の左足元の擁壁の役割を果たしています。この通路は石垣IとIIで区画された幅5.4mの坂道であったと考えられますが、路面がスロープか、石階段かは不明です。

また、当初は石垣の一部では、と期待された北面の巨石(写真5のA)については、現代石階段建設時に現位置に動かされた元石垣石材と判明しました。

また、一部では、石垣を築いた面を覆うような盛土造成が確認されました。これは、「小牧・長久手の合戦」(1584)で徳川家康方の陣城として使用された際の改修によるものである可能性があります。

3. 虎口構造について (写真7、図1)

上記2調査区で確認した主郭に設けられた出入口(虎口)については、



写真4 T区 石垣II 入隅部



写真5 U区 L字形に屈曲する石垣I



写真6 U区 石垣II 入隅部

- ・「古城絵図」での大手道表現
 - ・使用された石垣石材の大きさ
- などから、南側虎口を大手(表)、東側虎口を搦手(裏)と推定されます。それに伴うそれぞれの通路も「大手道」・「搦手道」と考えられます。それぞれの虎口には下記のような特徴があります。

- 【1】石垣Ⅰと石垣Ⅱで同様の通路動線を形成している。
- 【2】「平入り虎口」という年代的には古い様相を示している。
(後世には「喰違い虎口」、「枅形虎口」と発展するその前の段階)
- 【3】道幅は共通して5.4mとなる可能性がある。

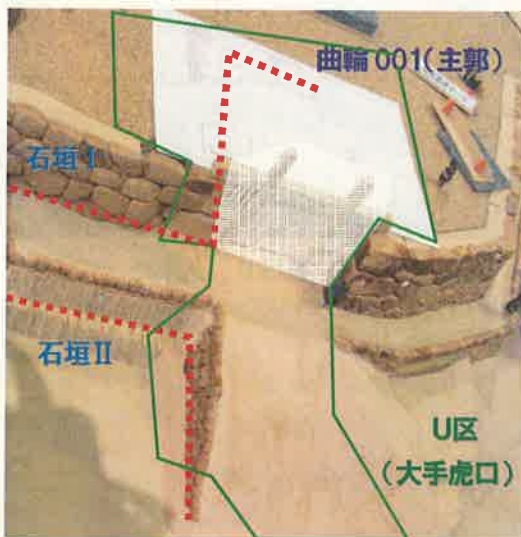


写真7 T・U区の想定ライン
(小牧市歴史館展示模型に加筆)

2 まとめ (何が明らかになったのか)

2つの出入口がそれぞれ大手と搦手の虎口であることとその構造を同時に確認しました。

大手虎口は石垣によって主郭内部へと誘導する構造を、搦手虎口では門の可能性のある礎石を確認しました。

城郭の虎口とは、当時の時代背景や築城主の戦略構想を如実に反映する、城の中でも特に重要な施設です。今回、主郭に設けられた2つの出入口(虎口)を同時に調査できたことで、どちらが大手(表)でどちらが搦手(裏)なのかを明確にすることができ、小牧山城の構造や設計意図を推定する大きな成果が得られました。

南の大手虎口では、「古城絵図」(江戸時代)に記された大手道が直線的に主郭に入り、屈曲する石垣によって囲まれる空間が設けられていたこと(後の枅形虎口への萌芽?)が明らかとなりました。

東の搦手虎口は、石垣Ⅰ・Ⅱの組み合わせ方が大手虎口と酷似しており、主郭周辺の築城工事の斉一性が際立ちます。石垣Ⅰには側溝と思われる石組みが一部伴い、礎石が確認されたことから、門(搦手門)が建っていた可能性が強まりました。これまでの調査を通して初めて建物遺構が見つかったことにより、謎のベールに包まれていた小牧山城の中心施設、構造物について迫る大きな一歩となりました。

天下統一を睨んだ信長の城づくり、ひいては「信長の野望」をうかがわせる貴重な成果です。

付表1：小牧山の歴史

時代	年	できごと
戦国時代	永禄 6年 (1563)	織田信長が小牧山城を築城し、清須から移る。小牧山南麓には城下町を整備した。
	10年 (1567)	織田信長、稲葉山城を攻略。岐阜と改称し、小牧山から居城を移す。小牧山城は廃城となる。
安土桃山時代	天正12年 (1584)	小牧・長久手の合戦 (羽柴秀吉軍と織田信雄・徳川家康連合軍の戦い) 徳川家康は織田信長の小牧山城跡を改修して陣城を築く。
江戸時代	慶長15年 (1608)	名古屋城築城開始。小牧山城の石垣を持ち出しか？
		小牧山は尾張藩領となり、家康公ゆかりの地として、一般の入山が禁止される。
明治時代	明治 2年 (1869)	版籍奉還により、小牧山は国有地となる。
	5年 (1872)	県立小牧公園として一般公開される。
	22年 (1889)	小牧山が徳川家の所有となり、一般公開を止める。
昭和～平成	昭和 2年 (1927)	10月26日 国の史跡に指定される。
	5年 (1930)	徳川家から小牧町へ小牧山が寄付される。
	22年 (1947)	東麓に小牧中学校が建設される。
	43年 (1968)	山頂に小牧市歴史館が建設される。
	平成10年 (1998)	小牧中学校を史跡外へ移転する。
	15年 (2003)	小牧中学校跡地を史跡公園として整備、開放される。
	16年 (2004)	主郭地区試掘調査開始 (第1～4次調査)
20年 (2008)	主郭地区発掘調査開始 (第1～8次調査)	

付表2：織田信長天下統一への過程と城郭

年代	信長年齢	できごと	城郭名	信長築城か？
弘治 元年 (1555)	22 歳	清須城入城	清須城 : 石垣なし	×
永禄 3年 (1560)	27 歳	桶狭間の戦いで今川義元を討つ		
永禄 6年 (1563)	30 歳	小牧山城築城、清須から移る	小牧山城 : 石垣構築	○
永禄10年 (1567)	34 歳	稲葉山城攻略、岐阜城と改め 小牧山城から移る	岐阜城 (千畳敷) : 巨石石積	改修
天正 4年 (1576)	43 歳	安土城築城開始	安土城 : 総石垣	○
天正10年 (1582)	49 歳	本能寺の変		

- 確認した石垣ライン (推定含む)
- 今年度調査区
- 想定される通路

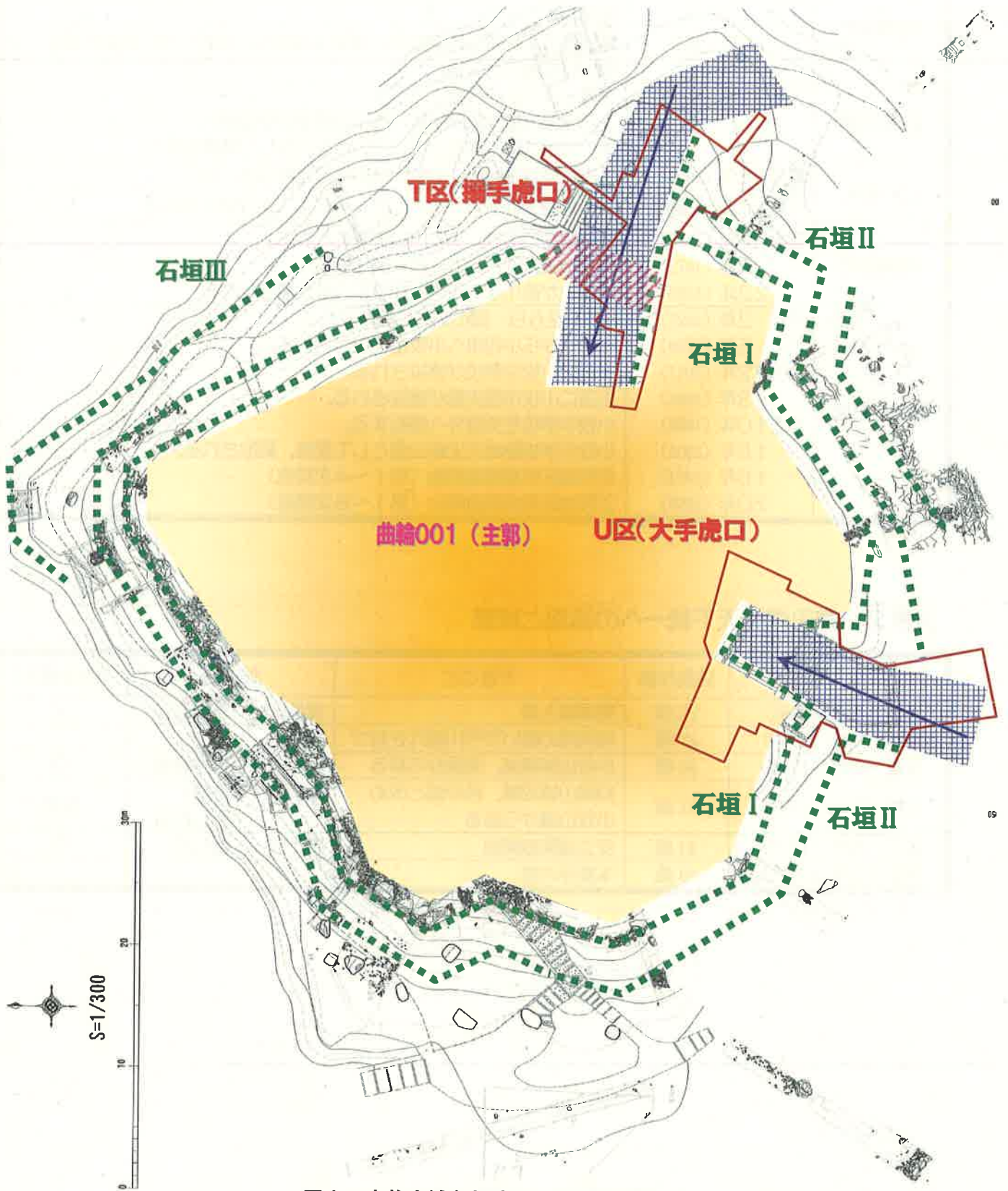


図1 小牧山城主郭地区 石垣模式図

図2 T区 遺構模式図
(S = 1 : 100)

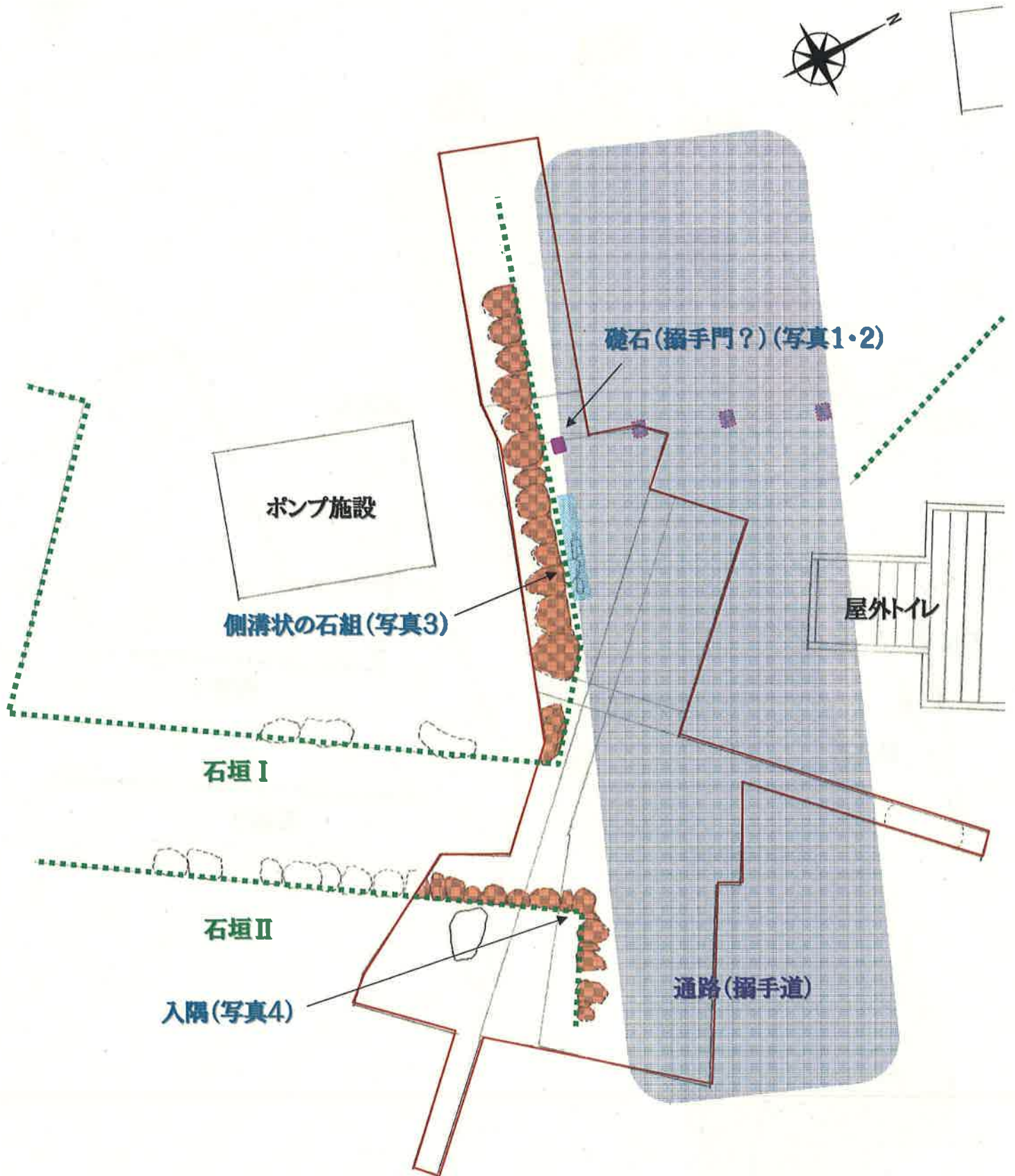


図3 U区 遺構模式図
(S=1:100)

